

第 145 回 『わかるように伝えていきますか』

坂井 聡

通常の学級にいる発達障害のある児童生徒をどう理解して指導すればよいかを考えていきます。発達障害のある児童の中には次のような特徴がある児童がいます。対人関係の構築が苦手である。対人コミュニケーションが苦手である。こだわり等が強く想像するのが苦手であること等です。もう少し具体的に紹介してみます。発達障害のある児童の中には、知的障害を併せもつ児童もいますが、ここでは、通常の学級に在籍している場合について述べていますので、対象とするのは、知的障害のない発達障害のある児童についてです。

- 伝えられたことが理解できれば、それを何とかできるように努力する力があり、真面目と評価されることが多い。
- はっきりしたこと、答えが明確なことへの理解力が高い。
- 正義感が強い。
- 細かいことを見るのが得意で、小さな違いにも気づくことができる。また、音にも敏感であることがあり、細かい音を聞き分けることができる。
- 見通しがもてると最後まできちんとやり遂げようとする。
- 視覚的な記憶力がよく、状況などを視覚的によく記憶している。
- 対人関係を構築することや、対人コミュニケーションが苦手なので、社会性がないと評価されやすい。
- 会話がかみ合わないことがおおく、会話の中に入れないことがある。
- 相手が思っているように理解していない場合でも、本人なりには理解しているので「はい」と返事をしても、伝わっていないことがしばしばあり、「返事はよいが分かっていない」と評価されることがある。
- 他人がどう感じているのか想像するのが苦手なので、正直に言ってしまうことがあり、それが原因でトラブルになることがある。悪意があるわけでは決してないが、その結果、周囲からは、KY（空気が読めない）と評価されてしまうことが多い。
- いつもと同じ決まったやり方で行動したり、物へのこだわりが強かったりすることがあり、特定の物を同じ場所に置いておかないと不安になったり、突然の時間割変更が受け入れられなかったりして、トラブルになることがある。
- 刺激への過敏や鈍感なども見られることがあり、耳塞ぎなどの行動として表れることがある。
- 納得していないことについては、忘れられないことがあり、過去のいやな経験をおぼえてり、フラッシュバックが起こり、トラブルになることがある。

次回からはどのように具体的に対応していくのか考えていきたいと思ひます。

～坂井聡先生のご紹介～

《プロフィール》

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学科研究科修了。香川大学教育学部附属養護学校などの養護学校教諭を経て現在、香川大学教育学部特別支援教育領域 教授、香川大学教育学部附属幼稚園園長、香川大学支援センターバリアフリー支援室室長。1997年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞を受賞。